

平成 30 年度 国立中央青少年交流の家教育事業

教員免許状更新講習

【必修】教育の最新事情【選択必修】学校における危機管理上の課題と対応

平成 30 年 12 月 8 日（土）～12 月 9 日（日）

○目的

小中高等学校，特別支援学校及び幼稚園の教員を対象に，免許状更新にかかる必修領域及び選択必修領域の講習会を，静岡大学及び御殿場市教育委員会と連携し実施することにより，喫緊の教育課題についての理解を図る。



○参加者

幼・小・中・高・特別支援学校教諭・その他

2 日間のべ 85 名（必修 80 名，選択必修 82 名受講）

○事業の内容

【必修①】「子ども観，教育観等についての省察」，「教育的愛情，倫理観，遵法精神その他教員に対する社会的要請の強い事柄」，「居場所づくりを意識した集団形成」（講義・実習）及び試験

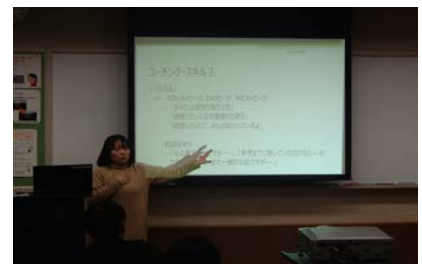
講師：静岡大学教職センター特任教授 鈴木 克壽 氏

授業の基礎 10 か条，桃太郎の話を用いた発問例等を題材にして，教育現場での経験が豊富な講師の先生ならではの問いかけやアドバイスの詰まった内容であり，教員として求められている資質や姿勢を見つめ直す機会となり，声のかけ方によって子どもの変化が変わってくるということを再認識させられる講義であった。

【必修②-1】「子どもの発達に関する，脳科学，心理学等の最新知見に基づく内容」，「特別支援教育に関する新たな課題（LD，ADHD 等）」，「カウンセリングマインドの必要性」（講義・実習）及び試験

講師：静岡大学非常勤講師 加藤 陽子 氏

現在の教育現場において，教員が脳科学や心理学に関する知見を広めることは必須である。各生徒に応じた対応について，ペアワークや具体的事例等を通して大変分かりやすく学ぶことのできた講義であり，今後の現場で即実践できる指導法やカウンセリングマインドを身につけることができた有意義な時間となった。



【必修②-2】「国の教育政策」，「世界の教育の動向」（講義）及び試験

講師：静岡大学教職センター特任准教授 山本 隆太 氏

世界の教育についての動向や情報について学ぶことにより，日本の教育に不足している部分や見直す必要のある部分について考えることのできた講義であった。教員の資質向上のための研修の重要性を再認識することができた。



【選択必修領域】「様々な問題に対する組織的対応の必要性」, 「学校における危機管理上の課題」及び試験（講義・実習）

※多数の受講希望があり、講座追加をして、**選択必修A・選択必修B**に分割しての講習を実施

【選択必修A】講師：静岡大学 グローバル領域准教授 松尾 由希子 氏

前半の講義・実習においては「学校危機管理に関する概論」についての講義の後、主に「多様な子供への対応」ということで「性的マイノリティと学校教育」について焦点を当てた講義・実習を行った。後半の講義・実習では「学校事故の判例にみる学校の安全・危機管理-模擬裁判-」, 「近年注目された学校事故-熱中症を事例に-」というテーマで危機管理に対する知識や理解, リスクマネジメントについての考えを深めることができた。受講生は模擬裁判（ロールプレイ）を通して, リスクマネジメント, リスクコントロールについての学びを深めることができていた。



【選択必修B】講師：静岡大学 グローバル領域講師 金子 泰之 氏

前半の講義・実習においては「教育について考え続けるための心理学」「自己理解を深める」についての講義で, 相手の特徴・癖を理解するグループワークや自閉症についての理解を深めることができる内容であった。後半の講義・実習では「子供に関する問題理解」「子供と保護者への支援を考える」というテーマでジルバルトンの監獄実験など大変興味深い内容を取り入れたり, いじめの構造についてわかりやすく説明されたりと, 今後の指導に役立つ講義内容であった。



《受講生の感想から》

- 教員として, 今後どうすればよいか見直す機会に恵まれ大変有意義であった。
- 学校現場に必要なものばかりを詳しく説明していただき, 分かりやすかったです。
- 特別支援など, 現在抱えている問題の指導に活かしていくことができる内容で, とても充実した講習であった。
- 興味深い内容が多く, もっと話を聞きたいと思いました。
- 明日からの活力となる講義内容であった。
- 快適な環境の中で講習を受けさせていただきありがとうございました。

《成果と課題》

- 講師の先生方が講義内容を受講者のニーズに合わせたテーマを取り上げたことや, ペアワークやグループワークを含んだ内容であったため, 受講生の講義に対する満足度が大変高かった。
- 前年度の受講者の満足度が高く, 今年度は予定募集を大幅に上回り, 講師の先生を追加して講義数を増やす対応を取ることとなった。今後、選択領域・必修領域ともに本所での受講希望が増加することが予想され, 募集方法, 講義数等を考える必要がある。